

【全国学力・学習状況調査結果の概要】

平成27年4月21日に小学校6年生と中学校3年生を対象として実施された「全国学力・学習状況調査」結果の安芸市の概要について報告します。

本調査の国語と算数・数学にはA問題と、B問題があります。A問題では基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかを見る問題、B問題では基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかを見る問題が出題されます。

例えば、数学A問題では「正の数と負の数とその計算、文字式の計算をする」等といった問題が出題されます。数学B問題では「数量関係を表す式を用いて、投影画面の大きさの適切な変え方を指摘し、その理由を説明する」等といった問題が出題されます。

したがって、B問題では知識や技能を活用する力を十分に付けて発揮できなければ、正答を導くことは難しいのです。

現在、学力は「学習した内容や知識・技能を活用して生活に生かしてより良く生きる」ことが求められており、刻々と変化する社会に対応できる力を伸ばしているかを問う問題が「全国学力・学習状況調査」でも出題されています。

学校の授業の中でも、自分の考えや思考を深める時間や他者の意見を聞いてそれを尊重しながら根拠を示し論理的に話し合い様々な判断を行う時間、相手に分かりやすく正確に伝える時間等が増えています。

今後更にしっかりとした学力を付けていくために、安芸市立小中学校の授業では、その時間に何を学び何が出来るようになるのかを授業の始めに「めあて・目標」で示し、そのことが身に付いたかを授業の最後で「振り返り」として確認することとしています。

児童生徒質問紙によると、児童生徒は、授業での「めあて・目的」を確認して授業に臨んでいます。しかし、一方では「授業が難しくなった」という回答が中学校で増加しました。

【今後の取組】

安芸市では、「問題解決型『学びのスタンダード』～主体的に学ぶ意欲を高めるために～」を教職員に示し、授業の導入時に「めあて・目標」を児童生徒に提示することで「課題の意識化」を図り、「課題解決に向けての見通し」をもたせ、「必要な情報の取り出し」ができるようにしています。更に「考えを

伝え、比較し、深める」学び合いに取り組み、授業の終わりでは、学習の「振り返り」をすることで、何を学び何が出来るようになったか自己の変容の自覚を行うこととしています。基礎的・基本的な知識・技能を着実に身に付け、それを活用して生活の中で生かせる授業づくりに更に取り組んでいきます。

そして、授業と家庭学習のサイクル化を図る取組を行っていますので、家庭や地域のご協力もいただけますようお願いいたします。

加えて安芸市では、学力の基盤となる学びの姿勢づくり、子どもの発達や学びの連続性を踏まえた円滑な接続に向け、保育所・幼稚園・小学校・中学校・高等学校が連携した取組を進めています。

また、学校生活や授業を通しての人を尊重し自己の価値を再認識することにより、生命を大切にしてお互いに協力しより良い生活に向かう態度や姿勢を培うことにも力を入れています。

そのため年に数回の「生活調査」を実施し、人間関係の構築や安心安全な学級を築いてきました。また、年に2回のQ-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）を行い、児童生徒が学級でどのような人間関係や立場で生活や学習しているのかを把握して、児童生徒が自己を十分に伸ばせる環境を一層整えていきます。

日常の学校生活の場面におけるさまざまな機会に、生徒指導の3つの機能（自己存在感・共感的な人間関係・自己決定の場）に基づき、児童生徒の人格形成を図る取組を進め、予防的な指導（未然防止・早期発見・早期対応）の充実により、いじめ・暴力行為・不登校及び不登校傾向児童生徒をなくす取組を進めていきます。

学校の取組にご家庭や地域のご協力がいただけると、児童生徒は飛躍的に能力を伸ばし力を発揮します。

今後とも、お力添えいただけますよう、お願いいたします。